

JIA NAGANO- KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
[http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)

Vol.79
2008
09.20



上田情報ビジネス専門学校「ものづくりの楽しさを伝える雑学講座」



出版委員会土手会議



第1回幹事会

『初秋雑感』

いつの間にか、すでに九月を迎えていた。初秋は何気にしんみりと想い耽ったりする季節。今年を振り返るにはまだ早すぎるのだが、何故かすごい達成感に満ちた記憶がない。

思えば、何となくプロポーザルやコンペに追いかけ回されたことや、クライアントの理不尽とも思える要求に奔走、苦悩したことぐらいが思い起こされる。忙しすぎるのか、記憶力が減退しているのか、いずれにしてもこんな具合に時間が過ぎていけば、これから私の苦楽は“すべて幻”となってしまうのか。・・・まあ、それはそれでいいような気もする。

先日、関東甲信越支部の会員集会に出席。議題は本部における「定款／会費改正」である。5年前、会費を大幅に下げて会員増強を図った政策に端を発した財政破綻問題に対し、前仙田会長の時代ではどんなに運営が苦しくとも会費の値上げはせず、他の会員増強策によって維持すると固辞してきたが、果たして財政は本・支部とも従来の活動を継続するには逼迫状態を迎えており、過去3年間に渡りそれぞれの支部裁量また、その都度の暫定措置として活動支援金と銘打ち、義務でなく協力金として徴収してきた。

JIA長野県クラブ 副会長 久保 隆夫

関東甲信越支部では約85%の収納率を得て活動は円滑化しているものの、この事態については大変な議論が紛糾、未消化であったことは周知のことです。わが地域会としても、役員会を通じ期限のない暫定的な措置ではなく適正な会費として徴収すべきとの回答を出してきましたが、やっと本年度に会費改正に踏み切ることに至りそうです。

長野県クラブ会員にとっては、「本会会費」「支部支援金」「クラブ運営費」による理解しにくい会費の三層構成が従来の仕組みに戻ることは一歩前進(?)と考えたい。急速に変容している人や社会の価値観のなかで、内的財政問題が発生以来、悶々としてきた問題が終焉。業務環境改善に向けて積極的な施策が期待される今、JIAはベンチの中で内輪揉めしているのではなく本来の我々が向かい合うべき“社会”に出るべきだろう。

私たち会員は単なる建築家という分かりにくい領域だけに拘らず幅広く時間とエネルギーを費やす時代を迎えているのではないだろうか。



長野県クラブの本年度の事業計画の中で、JIA活動の社会認知度向上、外部企画イベントへの参加の促進があげられ、この活動方針に基づき、積極的にセミナー活動へ講師を派遣し、外への情報発信、地域社会に対しJIA活動を広く知ってもらうとともに、地元地域に良好な都市環境・住環境を提供していくための活動を推し進めています。今年度は、

- ◆「上田情報ビジネス専門学校 雜学講座」 8月26日、11月、3月。
- ◆「INAX 家づくりセミナー」・長野：10月12日、12月・松本：8月31日、1月、3月。
- ◆「JAグリーン長野 家づくり講座」 10月25日。

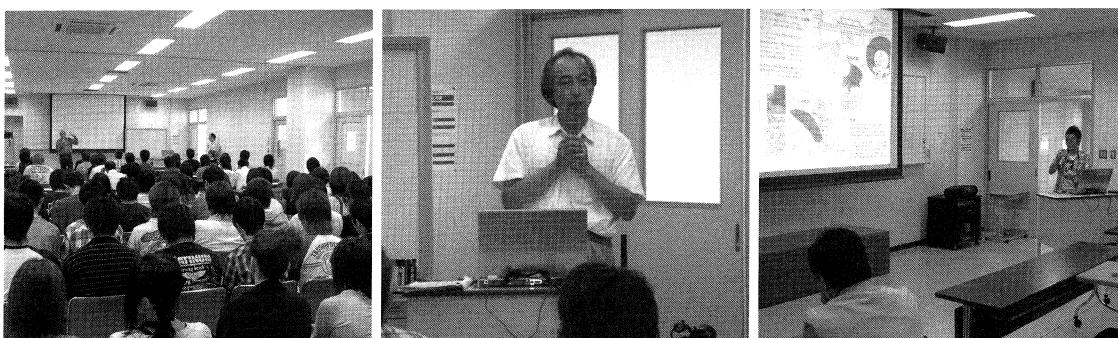
と数多くの講座が開かれます。多くの方に参加していただきたいと思います。

上田情報ビジネス専門学校「ものづくりの楽しさを伝える雑学講座」

8月26日上田情報ビジネス専門学校で学生を対象に「ものづくりの楽しさを伝える雑学講座第1回」が開かれました。

前半は川上恵一さんを講師に建築の道に進まれたきっかけ、ものづくりの楽しさ、実際の建築例、学生へのアドバイスなどの講演。後半は学生に課題作品を発表してもらい、その作品に対して講評をする二部構成で行われました。講演は川上さんから学生に、学生から川上さんにといった質問形式で行われ、建築って何？空間を作ること？……建築とは用と美をなすもの。建築の仕事は無から有を作る行為。こう考えたからこうなったと覚悟を決めて形にすることが求められる。何をしたいのか何をしなければならないのか常に考えて行動すべきである。なぜ松本で仕事をしているのか？自分が育った故郷から学んだことを返していくことが重要であると考えている。真正面から向かうことができるるのは地元である。個性は一生懸命やると出てくるもの自分らしさが出てくる。人にいやな思いをさせない。相手に迷惑をかけない。作品ではなく仕事世の中人のために自分の最大の努力をする。己を殺すことが結果的に己を生かすことになる。といったことを川上節で話をされました。

2部の発表会は2年の学生が各自の作品を5分程度でプレ



ゼンし、それに対して講評コメントをするスタイルで行われました。作品に対する厳しい意見が生徒に對向けられ、大学の製図の授業の雰囲気を思わせるものでした。川上さんの建物を設計する想いや真剣な姿勢を感じさせるものでした。学生にとってあまり経験できない建築の本当の厳しさを肌で体験することができたのではないかと思います。卒業設計を取り掛かる前に学生にとって大きな刺激になったのではないか、厳しいことを言われた学生も決して自信を失うことなくこれをバネにして、自分自身をもう一度見直し、すばらしい作品の製作に取り掛かってもらいたいです。

上田情報ビジネス専門学校の教育方針で「本物のあいさつをする」「そうじはしっかりと」「いつでも素直」の3つの約束があります。特に建築の仕事をしていくに中で、この三つのことは最も重要な心構えです。こういった教育を受けている学生はきっと社会にて立派に仕事をしていくだろうと思いました。

INAX松本「信州の建築家と作る家づくりセミナー」

さる8月31日、INAX松本ショールームで「INAX夏祭り」があり、その中で荒井洋氏による「信州の建築家と作る家作りセミナー」講座が開催されました。ショールームには一般客が多数訪れる「クレヨンタイル」や「モザイクタイル」などの体験コーナーなどで賑わっていました。

セミナーでは「JIAとは？建築家とは？」「ハウスメーカーと工務店との違い」など一般の方が日頃疑問に感じていると思われる事柄を前編に、主題として「信州の気候・風土にあった家づくり」についてご自身の作品の事例の中でお話しさされました。

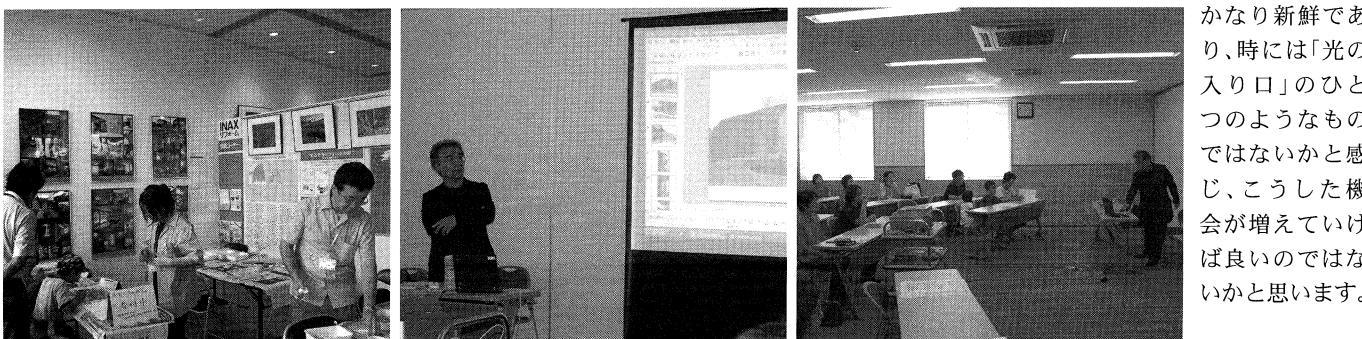
「松代の家」は、敷地の高低差とクライアントの要望である「目立たない家」という難題を見事に解決された住宅でした。設計当初はわざと屋根を尖らせることでクライアントの意志を確認し、

後から来る者という意識の中で近隣への配慮をどう捉えるかを再認識していく過程が浮き彫りになりました。

敷地には朝昼夜、晴れの日、曇りの日、雨に日それぞれ訪れることで様々な角度から都度移り変わっていく敷地を捉え、敷地本意で計画が進められていく様子が解り大変勉強になりました。

ご本人は「難しい話しになってしまった」と話されていましたが、一般の方にむけて「その場所にあった設計の出来る人を見つけて良い家を建てて欲しい」という意図は充分に伝わっていたように思います。

私自身、一般の方以上に話に聞き入ってしまい、勉強させて頂いたのですがクライアントにとってはこの混沌とした時代の中で「信州の建築家の家づくり」について実際の声を聞くことは、



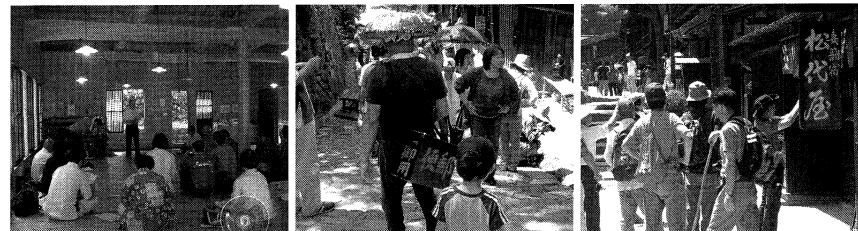
かなり新鮮であり、時には「光の入り口」のひとつのようなものではないかと感じ、こうした機会が増えていけば良いのではないかと思います。

まち並みウォッチング 妻籠・馬籠に参加して

妻籠・馬籠はもう何度も訪れた宿場町で余り期待することもなく参加した。普段参加する妻もさすがに飽きたようで不参加となってしまった。中信地区の参加者が極端に少なく残念であったが、地元で展示会を終えたばかりで仕事がたまっていたのだろう。

相変わらず夫婦同伴で参加した会員が5組もあり、そこがJIAウォッチングの魅力である。赤羽会長も同伴で参加され、初めて奥様にお会いできた。初めに期待せずに参加したと書いたがふたを開けるととんでも無い、案内役の小林さんが実は妻籠のまちなみ保存の重鎮で、様々な苦労話を伺えたのは貴重な体験である。すばらしいまちには必ずどのように心底町を愛する人物が居るものだ。問題は小林さんに引き続いて、どのように情熱を持って町を守っていく人が出てくれるか否かであろう。今回見学した二つの宿場町は一見同じタイプの古い町と思われがちだが、同時に見学すると大きな違いがあることに気がつく。妻籠は忠実に家並みを守りそこに生活しておりとても風情がある。馬籠は一見きちんとされているが実はそれぞれバラバラで単に古く見せた土産物店の連なりでしかないという事がわかる。町を歩く人達

にも違いがあり妻籠は家並みを鑑賞しながらじっくりと歩くタイプ、馬籠はお土産に目を奪われたごく普通の観光客が歩いている。たぶんどんな建物であっても関係ないのではないかと思えるほどで、テーマパークと何ら変わりが無いのかもしれない。そうは言っても先祖が残してくれた遺産の力は大きく、坂道のあのような家並みの佇まいはすばらしく、住民はそれを忘れてはいけないと簡単にダメになってしまうだろう。小林さんの言葉を思い出す。隣より儲けようと思い始めたら終わり。ハイライトの峠越えは普段の運動不足を解消でき楽しかったが、暑い。

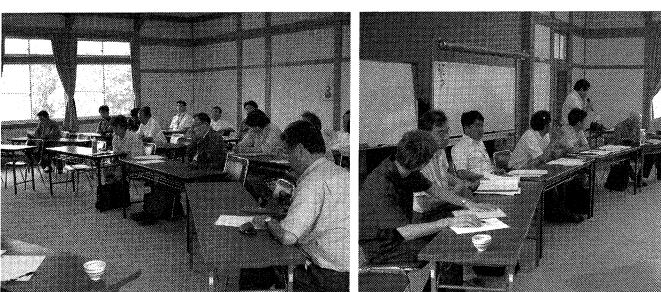


パネルディスカッション「長野力 2008」

8月2日、松本市薬師平蔵宿において夏の恒例行事が行われました。今回はパネルディスカッション「長野力 2008」——委員長が熱く語る——と題して、出席者36名参加のもと、川上副会長を進行役で2時間熱く語っていただきました。初めに赤羽新会長により今年度の活動方針について、

- ①JIAと会員の活動を社会にどのようにアピールしたらよいか
- ②広報の充実、全員参加のイベントの開催
- ③社会への情報発信、建築家の社会的役割
- ④出江新会長からの設計環境改善について

などの報告をしていただき、次に各委員長により委員会活動の報告と今後の活動をより活発にするための提案等をしていただきました。続いて川上副会長進行によりパネルディスカッションがおこなわれ、それぞれの立場から現在のJIA、及び長野県クラブの印象、問題点、今後の方向性について熱く語っていただきました。



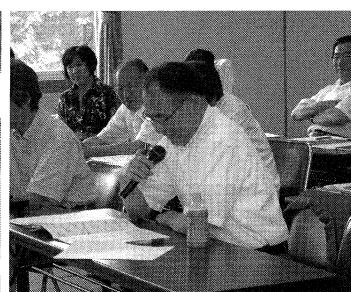
彰建築設計事務所 竹花 彰男

具体的には

- ◇新入会員の方の印象は—建築が大好きな人達の集まりという印象。
- ◇第三者的には—とても厄介な集団だが、ものづくりの難しさと同じかも。
- ◇何事も発信しないと相手に届かない。
- ◇会議の時間を守らない人達・子供っぽい、でもそれでいいと思う。
- ◇アナログでFace to Face が必要。
- ◇建築祭は一般の人達にも伝える機会にしたい。
- ◇松本市が協力的なのは地元のみんなの活動の努力のたまもの、他でも同じ努力をしなくてはいけない。
- ◇いろいろな問題のさきにあるものが何か解らないといけない。
- ◇良い情報が伝わるには時間がかかる。



◇会や個人の方向性を出すことは結束のために必要であり、その先に目指すビジョンを個人々がしっかりと持つことが大事である。等々他にもたくさんの思いが語られ、新しい長野県クラブが始まりそうな予感をさせる一時でした。



新入会員紹介

この度、JIA日本建築家協会に入会させていただきました、松本市news設計室の丸山和男と申します。現在は、松本市、安曇野市で、住宅を中心に、設計監理活動をしています。

数年前より、松本市、安曇野市在住の建築家の方々と、お互いの作品を見学し批評する機会を得て知り合い、お付き合いさせていただいている。

今年の7月には、第二回松本安曇野住宅建築展にも、参加させていただきました。その建築展の準備運営を通じて、建築展参加JIA会員の方々の、建築に対する情熱や想いを肌で感じることが出来、大変多くのことを学ぶことが出来ました。

建築に対する夢や情熱は持ち続けてきましたが、JIAに入会するには、まだまだ実績も少なく、力不足だと常々考えてきました。

news設計室 丸山 和男

しかしこの度思い切って入会することで、真摯に建築に取り組む会員の皆さんに接することによって、より一層自分自身が成長できるのではと思います。

現代の経済状況も含めた閉塞感の中、これらのJIAでの活動の中で、建築を志す若い人達に、夢を与えられるように努力したいと思います。

JIAに入会するにあたり、建築を志した時の初心に帰り、よりいつも自己研鑽に努め、社会に対しても、建築家の職能の確立に向けて、よりいっそ努力していきたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



賛助会だより

技術交流会「究極の冷暖房とPS室内環境」

この度はJIA長野支部主催の技術交流会でピーエスの室内気候のコンセプトについて熊本の「オランジュリ」を事例としてご紹介させていただきました。あらためて赤羽会長他、メンバーの方々に御礼申し上げます。その後の懇親会などでも深く交流ができ、とても有意義な時間でした。

熊本のオランジュリも他の建築もそうだと思いますが、最初のデザインコンセプトでその後の方向が大きく左右されました。そのため、その主旨がはっきりと決まるまで数年かかり、その間あらゆる方々にアドバイスをいただきました。もちろ

技術交流会「住まいの環境・断熱について」

日頃はJIA長野県クラブの皆様に断熱工事や冷暖房工事をご用命下さいましてありがとうございます。当社は長野県クラブ賛助会に入会して2年が経ちました。総会、忘年会、納涼会、町並みウォッチング等参加をさせて頂く機会に恵まれて思う事は、お客様に対して会員の皆様が精一杯の技術やデザインを習得し後世にも誇れる建物を建築していく。そんな意気込みが強く感じられて、私も業界に入った頃の使命感と情熱を失わないように取組み続けなければならないと思っております。

今回技術交流会では、<省エネルギー住宅の設計と意義>

「望郷」

今回夏の恒例行事を以ってJIA担当を離れる事になりました。お付合い有難うございました。振り返ってみれば平成11年夏、営業先の出澤会長（当時）のお誘いで入会する事になり、いきなり冬の技術交流会で流行しつつあった珪藻土についての講師をしてから早10年。いろんな事がありました。会員の皆様は、海を渡って来たよそ者の私を温かく迎えてくれました。設計事務所は敷居が高く、設計士は雲の上の人とばかり思って居りましたが、建築家の方々は違っていました。みんな熱いのに感激しました。ああこれがJIAだったのです。JIAって何だろうとずーっと思っていました。担当から外れた今、その情熱こそがJIAなのだ。これだけははっきり解りました。

冬、露天風呂から見上げた星空。雪が舞いしきった建築祭。ラリーの如く走り廻った蓼科。弥次喜多になった小野宿、茂田井宿。オリンピック選手と見間違ったピンポンペア。夏、男湯

ル室内気候については私どもが専門とする分野です。

目的も室内気候をその土地、その建物、そしてその用途にマッチした形でデザインするために実験もかねて「放射と自然換気」を組み合わせました。

この経験が今のピーエスのノウハウになっております。そのノウハウをさらに活かし、皆様のお役に立てれば幸いと切に願っております。今回はありがとうございました。



信越ビー・アイ・ビー株 小林 義孝

と題して私が発表させて頂きました。竹花彰男委員長からの依頼によるものでしたが、生来のおき楽な性格で二つ返事で承諾していました。内容に不足や不満も多々あったと思いますがお許し下さい。今までの2年間は傍観者（お客様）でいましたが、発表者になった途端にJIA長野県クラブがみじかに感じられるようになりました。今後微力ながら会員皆様の役に立てるよう精進いたします。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



(株)コーティングコーポレーション 中川 源右

より多く流した汗の中山道峠越え。卯建も見えなくなった豪雨の海野宿。朝まで語り明かした階段話。カメラ片手に東奔西走保存問題。漆の勉強をした平沢。屋根裏へ昇った上高地。言いたい放題「本音で語ろう会」。雪の雁木。木造三階。目覚め窓越しの常念岳。地下まで覗いた片倉館。補強の入った国民宿舎。試飲に頬染めた諒訪宿。等々、聞くもの見るもの興味津々。走馬灯を止めたい私の第三の故郷でした。

突如、川上副会長から舞台に上がるよう言われ、皆勤賞だの、参加する事に意義があった等々、また万歳三唱まで頂き、涙腺が切れる一歩手前。小生にとって感動の10年間。ありがとうございました。合掌。JIA長野バンザイ！再会。



■今後の行事予定

- 10月12日……………INAX長野家づくりセミナー
- 10月16日～19日…………JIA建築家大会2008東北
- 10月25日……………JAグリーン長野家づくり講座
- 10月29日～11月1日アーキテクツ・ガーデン建築祭2008
- 11月7日～8日…………地域サミットin長野
- 11月8日……………街なみウォッキング
- 12月6日……………冬の恒例行事

■会員のお知らせ

「環境プランニング 木下さん」が公共建築賞を受賞しました。南信州の地域産材により組み上げ、自然エネルギーによる居住性を追及し、極めて手作り的でありローテックな施設で「信州の木造建築によるオーガニック・ガウディ調」と評され高く評価されました。詳しくは「建築ジャーナル2008/1」「公共建築協会HP」をご覧ください。

編集後記

これから次への総理大臣が辞任し、世の中の不安な要素が増すばかりです。建築業界も低迷し続けています。耐震偽装問題発覚以来、われわれ設計者に対する社会の風当たりは非常に厳しくなっています。こんな時こそお互いに切磋琢磨し建築の原点に返って、信頼される活動をする責任があるのではないか。社会の信頼に応えられるような研鑽が必要ではないかと思います。……広報委員長 勝山敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／勝山敏雄 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
発行人／赤羽吉人 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp